

## 平成 30 年度 バックエンド部会賞 受賞者

(1) 功績賞 (バックエンド分野において幅広くかつ顕著な貢献のあった個人、毎年 1 名以内)

**受賞者名**：池田孝夫氏 (日揮)

**選考理由**：第 1 次および第 2 次 TRU レポートの編纂に協力し、その概念検討および安全性の評価に貢献したことを始め、長年にわたり放射性廃棄物の処理・処分に関する技術および性能評価に関する研究・開発の推進に大いに貢献し、その発展に寄与してきた。また、海外からの返還廃棄物の輸入確認助勢等を通じて諸外国との協力関係の醸成にも寄与した。加えて、それらを通じて人材の育成にも注力し、数多くの研究者・技術者の現在の活躍に繋がっている。さらに、部会の運営、標準作成や種々の専門委員会への参加を通じて、学会および部会の発展に多大な功績を残した。

(2) 業績賞 (バックエンド分野において顕著な学術または技術上の業績のあった個人またはグループ、毎年 2 名以内もしくは 1 グループ以内)

**受賞者名**：大貫敏彦氏 (東京工業大学)

**選考理由**：日本原子力研究所 (その後、日本原子力研究開発機構) に入所し、放射性核種の地層中での挙動を解明するため、土壌中における元素の移行挙動、放射性核種の鉱物などへの吸着や固定化機構、ウラン鉱床を利用したアクチノイドの長期的な移行挙動、アクチノイドなどと微生物との相互作用機構などに関する研究を行ってきた。さらに、福島第一発電所事故以降は、放射性 Cs の土壌中での化学状態や鉱物及び糸状菌との相互作用を解明する研究に取り組み、環境中での放射性 Cs の挙動解明及びきのこへの放射性 Cs の移行を抑制する材料の開発を進めてきた。

これらの研究に関する 150 報以上の学術論文等を公表し、当該分野での研究の進展に大きく寄与した。また、研究を通じて得られた知見は、放射性廃棄物処理処分技術の向上や、放射性核種に汚染された環境の評価・修復技術の開発等へ大きな貢献を果たした。

(3) 奨励賞 (バックエンド分野において顕著な学術または技術上の業績のあった概ね 40 歳までの個人、毎年 3 名以内)

該当者なし

(4) 優秀講演賞・学生優秀講演賞 (バックエンド分野に関する、日本原子力学会またはバックエンド部会が主催もしくは共催する行事において優れた口頭発表をおこなった個人を対象。各行事で原則 1 件以内)

○優秀講演賞

**受賞者名**：菅原透氏 (秋田大学)

**選考理由**：2018 年春の年会の口頭発表 2010 「ガラス固化モックアップ試験で形成された仮焼層の反応解析」について、「“優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。

**受賞者名**：鈴木誠矢氏（JAEA）

**選考理由**：2018 年秋の大会の口頭発表 1F13「燃料デブリの経年変化における物理学的メカニズムに関する研究 (1)周期的な温度変動による総クラック長さの変化」について、「“優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。

#### ○学生優秀講演賞

**受賞者名**：川合康太氏（東京工業大学）

**選考理由**：2018 年春の年会の口頭発表 3O13「21 世紀後半に向けた廃棄物管理の選択肢：Pu 利用推進と環境負荷低減型地層処分にに関する研究 (3)核燃料サイクル諸条件が使用済燃料とガラス固化体に及ぼす影響」について、「“優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。

**受賞者名**：Carlos Ordonez 氏（北海道大学）

**選考理由**：2018 年秋の大会の口頭発表 2F10「Transport and Deposition Behavior of PEG-Modified Gold Nanoparticles in Natural Barriers」について、「“優秀講演賞”の評価基準」に基づく採点の評価結果による。

(5) **ポスター賞**（バックエンド分野に関する，日本原子力学会またはバックエンド部会が主催もしくは共催する行事において優れたポスター発表をおこなった個人を対象。各行事で原則 1 件以内）

**受賞者名**：藤井直樹氏（原子力環境整備促進・資金管理センター）

**選考理由**：第 34 回「バックエンド」夏期セミナー（2018 年 8 月）ポスターセッションの発表 po08「フィリピン国パラワン島中南部（Narra 地区）のナチュラルアナログ調査(2)～アルカリ環境下の変質プロセスとベントナイトの長期健全性～」についての評価結果による。

(6) **論文賞**（部会誌「原子力バックエンド研究」に掲載された過去 3 年間の論文を対象。毎年 1 編以内）

**受賞者名**：舘幸男氏（JAEA）、陶山忠宏氏（JAEA）、澁谷早苗氏（NUMO）

**選考理由**：部会誌「原子力バックエンド研究」Vol.24-2（2017.12）に掲載の論文「地層処分性能評価のための岩石に対する収着分配係数の設定手法の構築：花崗岩を対象とした適用性評価」について、「論文賞」の評価基準」に基づく採点の評価結果による。

(7) **功労賞**（バックエンド部会の発展に顕著な功労のあった個人を対象。毎年 2 名以内）  
該当者なし

以 上